

第7回 第4次日野市農業振興計画策定委員会 要点録

日 時:令和6年1月30日(火) 14時00分~16時00分

場 所:日野市役所5階 501会議室

出席者:8名

※敬称略

番号	氏名	種別	備考
1	籾野 利之	市内農業者①	日野市農業団体連合会会長
2	梅村 桂	市内農業者②	株式会社ネイバーズファーム代表取締役
3	七種 和宏	JA 職員	東京南農業協同組合 日野地区指導経済課営農センター課長補佐
4	野島 智佳子	公募市民①	
5	齊藤 佳花	公募市民②	
6	直井 樹	東京都職員②	東京都南多摩農業改良普及センター
7	青木 奈保子	日野市①	日野市産業スポーツ部長
8	吾郷 勝	日野市②	日野市産業スポーツ部都市農業振興課長

欠席者:3名

1	馬場 裕真	日野市農業委員会	日野市農業委員会農政部会長
2	金井 望	東京都農業会議	一般社団法人東京都農業会議業務部
3	鎌田 純徳	東京都職員①	東京都農業振興事務所農務課

1. 開 会

産業スポーツ部長より挨拶

2. パブリックコメントに基づく素案の修正

①パブリックコメントの確認

<パブコメでいただいた意見で主なもの>

- ・水田の保全、推計値・目標値の上方修正
- ・加工品数の上方修正
- ・ブランド化の促進
- ・コミュニティーガーデンの拡充
- ・セツ塚ファーマーズセンターの拠点機能強化
- ・用水路の環境学習

②素案の修正について検討

<水田の保全>

- ・委員:水田をやっている農業者が、5年後の目標で作付面積を増やす計画を作成していた。田んぼを活かそうと頑張っている人もいる。
- ・委員:残っている水田をすべて残すように現状維持をしないといけない。
- ・委員:田んぼは守られるべきもの。所有している人の農地面積の数値の積み上げにしてもいいかもしれない。
- ・委員:田んぼの学校など、利益を生み出していない活用方法もある。P29の表 3-2-2 は経営耕地面積なので、この数値に積み上げられないという事情もある。
- ・事務局:認定農業者の所有面積ならわかるが、他の農業者分の把握は難しい。
- ・委員:把握しているものだけで積み上げてみては？
- ・委員:修正案はかなりの上方修正に見えるが。
- ・委員:田の面積が 0 になってしまうことはない、ということが伝えたいのだと思う。減少率をもう少し緩やかにするしかなさそう。
- ・委員:相続などの不確定要素は抜きにして、頑張っている農業者に規模拡大・水田維持してもらえそうな希望の意味も込めたい。
- ・事務局:再計算する。

<加工品数>

- ・事務局:加工品数の目標値を 50 個にしようと思うがどうか。加工品を始めたら日野市に報告するような仕組みにはなっていないので、カウントが難しい。
- ・委員:つい最近、加工品を始めようとしてる人もいた。50 個にするのはいいと思う。
- ・事務局:個人でやってるものは把握しきれないが、出来る限り把握していきたい。
- ・委員:「日野市」認定のシール作って、個数の把握をしてブランド化するのも良さそう。

<ブランド化>

- ・委員:日野の農産物と聞いてイメージするものは何か？
- ・委員:紀ノ国屋で使われているトマト。ブルーベリーは好んで食べる人が多い。梨も聞いたことがあるが、店舗で目にするのはあまりないのでイメージはない。
- ・委員:ブランド化の難しいところは、すでに我々はイメージ・知識として持っているところ。一般市民への周知が難しそう。
- ・委員:地元の人は梨を庭先直売所で買ったり、みなみの恵みで買ったりするのを知っているが、新しい住民はそれを知らないし知る機会もない。
- ・委員:農家側にも消費者側にもブランド化のメリットは大きいと思う。今回のパブリックコメントをみて感じた部分でもある。
- ・委員:ブランド化も「名前を付けて終わり」ではない。地道にやるしかないので、“毎年この時

期はトマト”のようなイメージが市民に根付くと最高。4月に美味しいトマトを作っている農業者が多いので、トマトフェスも4月にしている。トマトのアンテナショップやトマト街道といった取り組みも出来たらいいと思う。

・委員：新選組と高幡不動だけではなく農業もアピールしていきたい。観光を盛り上げる効果もあるので、トマト街道はいいと思う。

・委員：日野は熟れたトマトを売っているのが魅力だと思うので、離乳食を作るお母さん向けに日野の野菜をPRしてもいいかも。いちばん食材を気にする時期なので。転入するときにごみカレンダーをもらうついでに農業関係の配布物があると良いかも。

・委員：稲城市は農業カレンダーを配っていて市役所等に置いている。種まきや収穫などが書かれている。

・委員：JA 稲城支店にも置いている。それが欲しくて問い合わせをしてくる人もいる。

・委員：市民に農業の知識が刷り込まれるのでカレンダーはいいかも。

・委員：日野はお祭りも多いので、観光カレンダーのようなものにするのも便利かも。

・委員：スタンプラリーにしても楽しそう。多摩平第七公園では、トマトのシーズンは行列が出来るくらいになる。

<コミュニティーガーデン>

・事務局：コミュニティーガーデンの意見へは簡単な回答にしているがどうか。今回は新規に計画に入ったことが大きな進歩だと思う。

・委員：今回の計画は、農業経営の視点に留まらず様々な方法で農地保全を行う、という形になっている。

・委員：「市民のおかげもあり、計画に落とし込むことが出来た。」という文言があっても良いかもしれない。

・事務局：追加する。

<七ツ塚ファーマーズセンターの機能強化>

・委員：七ツ塚ファーマーズセンターの次の「第2の拠点」の構想はあるか？

・委員：西平山地区の区画整理が終われば考えられるかもしれないが何年後かわからない。場所の候補のイメージはあるのか？

・委員：高幡不動周辺など地域毎に拠点があると良い。

・委員：みなみの恵みはどうか。JA では直売所として機能しているが、農家の拠点としての計画はまだない。

・委員：援農の会も事務局の拠点があるはず。そこで農家とも交流できるようになれば理想。援農の会は農業に興味がある人の集まりでもある。

・事務局：ご意見を踏まえ、今後検討していきたい。

<その他>

・委員:今までは日野産農産物を買って、食べて、レシピを作って、という活動をやってきたが、策定委員会で実際に農家さんと触れ合い、農業がより身近になった。「農家さんを応援したいから日野産野菜を買う」という意識になった。もっと市民みんなが農業に携われるような企画があればいいと思う。

・委員:今年の初めも震災があった。アクションプラン 221 の防災機能の強化は必ずしていかなければいけない。防災協力農地の協定も早めに素案を作って、早めに動いた方がいいのでは。

・委員:都補助事業で整備した防災兼用農業用井戸は、災害時協力井戸の協定も結んでいる。有事の際には、水の提供は必ずしていただくことになっている。

・委員:定期的に災害時のお知らせや協力をお願いをしていくべきでは。

3. 事務連絡

今後のスケジュールについて事務局より説明

4. 閉会